

2020年2月21日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 546

教員風土への外からの風——

実務家教員への期待と養成・FDの実際

～ 「実務経験」＋教育指導力＋研究力／公的学費助成／教員評価 ～

3月16日（月曜日）開催

ご参画・ご派遣のお願い

【企画協力：学校法人 城西大学】

戦後の新制大学が、学術教育系に一元化し単線型制度としてスタートしたため、実践的な職業教育系が長らく“非大学”の学校に位置づけられてきました。高等教育のユニバーサル化と社会・職業の高度知識化の潮流の中で、専門職大学院、そして専門職大学・短期大学という新学校種とともに、既存の大学・短大においても、専門職学部・学科が特例として制度化されました。大学教員の新たなタイプとして、“実務家教員”へのニーズ・期待が高まっております。

近年、企業・行政・専門機関・NPO等から毎年1,500名～2,000名（採用者の2～3割）が本務教員として大学に採用されています。2015年度から一般大学等で広くスタートした「職業実践力育成プログラム（BP）」の申請書の「教員・実務家の所属」欄において、「（実務家教員）」の表記、及び「実務家」（要件としては実務家教員と同じ）における所属の企業・行政等の名称の記載を求めています。このような状況の中で、“実務家教員”の養成・活用・評価・FD活動の拡大と深化が急務となっております。

本セミナーでは、30年余にわたり、教育重視型大学・大学院として、多数の実務家教員を登用・活用してきている多摩大学のケースを今泉忠氏からご報告をいただきます。教員の4タイプとその役割、週5日・4日・3日の勤務体制は、実務家としての経験を保持しながら、実学教育を担う方式としては、たいへん有効に機能するものといえます。教員との契約スタイルや再任・昇格での業績評価の仕組み、自己評価と他者評価等について論展いただきます。

2つの専門職大学院を運営する（学）先端教育機構では、2018年10月から先駆的に「実務家教員養成課程」を開講し、これまでの3期までで124名の養成を行っています。本プログラムの制度設計のコアパーソンでおられる川山竜二氏（社会情報大学院大学）に、現代社会における実務家教員へのニーズ・期待とともに、経験値を体系化し教育指導力を養

成していくためのコンセプト・カリキュラム・教育方法の課題と展望について論展いただきます。

2019年度新規事業である文科省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業～リカレント教育等の実践的教育のための実務家教員養成・活用システムの全国展開」において、(学)先端教育機構は、「実務家教員COEプロジェクト」の採択を受けました。社会情報大学院大学を中核として、日本女子大学、武蔵野大学、事業構想大学院大学と連携して、“教育変革のエージェント”となる実務家教員養成システムトリカレント教育の全国展開に取り組んでおります。主催組織となる先端教育研究所の荒本啓史氏から、ホットな具体報告をいただきます。

大森不二雄氏（東北大学）からは、文科省事業の「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の総合プロデューサーとして、「産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム」と「実務家教員育成・活用ナショナルシステム」の2大事業について、報告と論展をいただきます。東北大学、熊本大学、大阪府立大学、立教大学をコアとし17企業、4自治体、2社団を連携するプロジェクトであります。

わが国の大学・短期大学の実務教育の普及・発展を47年余にわたり、教員研修と資格授与面から担ってきたJAUCBの清水一彦氏から、実践的職業教育の深化に向けて、ご報告とともに論展をいただきます。実務家教員養成講座の開発設計のプロセスと実施内容、そして、今後の登用促進への諸課題～研究者養成システムとの整合、実務家教員の業績評価等について提言をいただきます。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。
パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/200316.pdf>